岡山天文博物館　活動報告

令和３年 10 月 26 日（火）

博物館連携事業　自然観察会「高梁川流域自然たんけん１」を開催！

令和３年 10 月 10 日（日）、倉敷市立自然史博物館と連携し、高梁川流域の７市３町をめぐる観察会の第１回を岡山天文博物館で開催しました。親子など 44 人が周辺の自然観察や施設見学を楽しみました。

①

②

③

④

⑤

はじめの説明の後、まずは、２グループに分かれて施設見学。天文博物館では、展示室の見学や太陽ドームにある望遠鏡を使って太陽の黒点やプロミネンスを観察しました。天気も良く、ちょうど大きめの黒点も見えていました。（写真①）

もう一つは、天文博物館の隣の京都大学岡山天文台「せいめい望遠鏡」（平成 30 年完成）を、ドーム３階の外周路から窓ガラス越しに見学。（写真②）

岡山天文台周辺では、「ひっつきむし」の仲間で、県内ではまだ記録のない「オワリセンダングサ」と思われる植物が見つかりました。（写真③）　南米原産の外来種で、よく似ている「ホソバノセンダングサ」とは葉の形やそう果の刺の数が違います。植物分野の学芸員によると、天文台の工事にともなって外から運ばれてきた可能性が高いとのことでした。

自然観察では、特別に許可を得て、国立天文台の望遠鏡が並ぶ構内に入らせていただき、昆虫や植物など、興味ある分野にわかれて観察しました。（写真④⑤）

天文博物館のある浅口市・竹林寺山は、たくさんの天文台（望遠鏡）が設置された、国内有数の天体観測に適した地。いつもは宇宙を見つめる研究施設ですが、天体観測に適した環境とともに動植物の生育・生息にも適した自然環境が残っていることがわかりました。

これは、高梁川流域連携中枢都市圏事業として、倉敷市と浅口市が連携し、倉敷市立自然史博物館および自然史博物館友の会との共催で実施しました。今後も他分野の博物館と連携した事業に取り組んでいきます。